

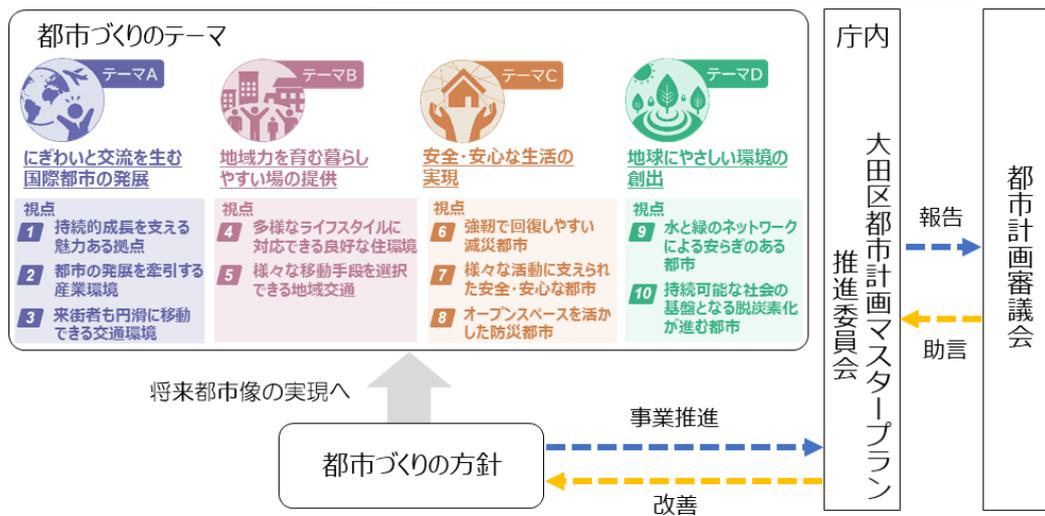
大田区都市計画マスタープラン進行管理指標（案）について

1 基本的事項

都市計画マスタープランの目標年次は概ね 20 年後と長期に渡ることから、将来都市像の実現に向け適切な進行管理を行う。

2 進行管理の体制

進行管理の状況について、大田区都市計画審議会へ定期報告（11 月）を行う。



3 進行管理の方法

テーマで掲げる 1～10 の視点ごとに、都市づくりの進捗状況を見える化する。

4 前回（11 月 10 日）に報告した区の指標の考え方

- ①「アウトプット」
 - 事業の実績値（例：助成事業件数、参加者数）
- ②「アウトカム」
 - 事業の効果を図る指標（例：耐震化率、満足度調査）

5 区民にわかりやすい指標値の見直し

事業の効果を図る指標として目標値を掲げ、個別事業も管理する（事業実績と政策目標で管理）。

- ①「事業実績」の考え方
 - 目標値を定めて管理 = 実績をもとに事業を検証
- ②「政策指標」の考え方
 - 目標値を定めて管理 = 都市づくりの進捗状況の見える化
- ③政策指標のまちづくりへの影響を解説
 - 区民目線で政策目標が達成されることで得られる便益を解説

視点6 強靱で回復しやすい減災都市

■ 事業実績	■ 政策指標	■ 政策指標の解説
無電柱化整備延長 現状値： <u>13.47km</u> （令和2年度末） 目標値： <u>20.79km</u> （令和12年度） ※整備には、測量・調査・設計等を含む	無電柱化率 現状値： <u>1.7%</u> （令和3年度） 目標値： <u>2.7%</u> （令和13年度）	【目標設定根拠】 優先整備路線及び事業中の路線の整備予定延長を基に算出した目標 【引用した計画類】 大田区無電柱化推進計画 【目標達成で得られる便益】 ・都市防災機能の強化 ・安全で快適な歩行空間の確保 ・良好な都市景観の創出
都市防災不燃化促進事業の助成件数 現状値： <u>119件</u> （令和3年度時点累計） 不燃化特区助成件数 現状値： <u>233件</u> （令和3年度時点累計） 耐震改修・除却助成件数 現状値： <u>267件</u> （令和3年度）	不燃領域率 大森中地区（西糺谷・東蒲田・大森中） 現状値： <u>61.8%</u> （R1） 目標値： <u>69.9%</u> （R7時点） 羽田二・三・六丁目地区 現状値： <u>43.7%</u> （R1） 目標値： <u>51.8%</u> （R7時点） 補助29号線沿道地区（大田区） 現状値： <u>43.4%</u> （R1） 目標値： <u>49.9%</u> （R7時点） 最終目標値：不燃領域率70%	【目標設定根拠】 不燃領域率が70%に達することで延焼による建物の焼失率が概ね0%になるものとして設定した目標 【引用した計画類】 東京都防災都市づくり推進計画 【目標達成で得られる便益】 ・市街地の延焼被害の防止
耐震コンサルタント派遣件数 現状値： <u>258件</u> （令和3年度）	住宅の耐震化率 現状値： <u>91.0%</u> （令和2年度） 目標値： <u>概ね解消</u> （令和7年度）	【目標設定根拠】 耐震性が不十分な住宅を概ね解消することで地震被害を大幅に減ずるとして設定した目標 【引用した計画類】 大田区耐震改修促進計画 【目標達成で得られる便益】 ・地震による建物倒壊の防止